令和4年度

鹿児島学習定着度調査結果について
（令和5年1月調査）

学びの変革への挑戦
～未来へ生きる子供たちのために～

令和5年3月

鹿児島県教育委員会

昨年度調査との主な変更点

子供たちに力がより身に付くように！

教師の授業改善により生かされるように！

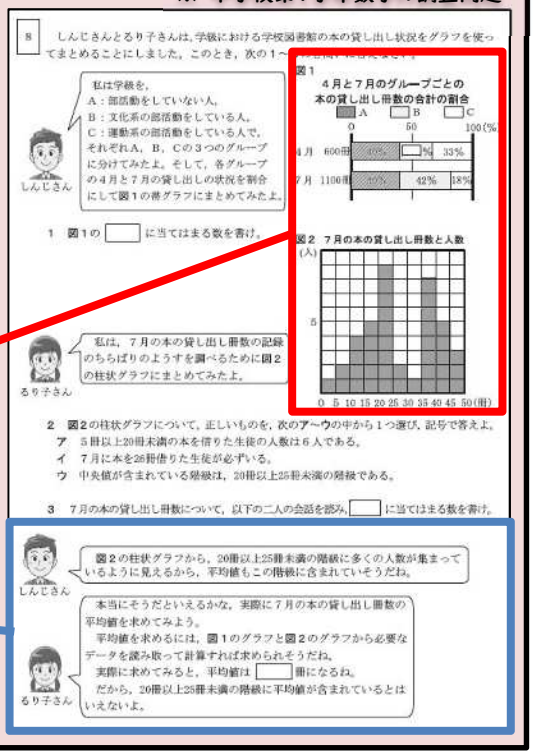
Ⅰ　よりよい調査問題へ！

学習指導要領が求める資質・能力を踏まえ，例えば全国学力・学習状況調査との関連をより図りながら，内容や「思考・判断・表現」に関する問題の出題数のバランスを変えるなどの見直しを行い，調査問題を作成しました！

□　複数の資料から必要なデータを見いだし，結論を導き出すことが求められる問題です。

□　授業の対話場面を用いるなど，実際の授業を想起しやすいような内容の問題も出題しています。

※ 中学校第１学年数学の調査問題



学校，教育委員会等が分析をより簡単にできるように！

子供たちが学びをより振り返られるように！

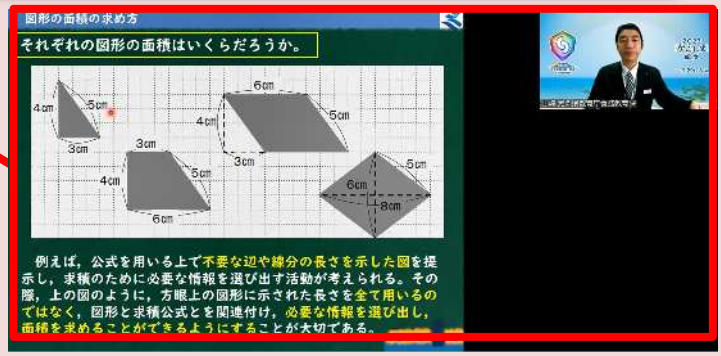
Ⅱ　より早い分析へ！より使いやすい個人票へ！

□　各学校等において，即座に結果分析が行えるよう，「集計表」を作成しました！

□　子供たちが全教科の結果を１枚のシートで振り返ることができるようになりました！

□　各学校において授業改善の参考となるよう，オンデマンド用解説動画を配信しました！

□　すべての教科，すべての学年（計 14 教科分）において「オンデマンド用解説動画」を県総合教育センター「学びの地図」のサイトにアップロードしました！



□　子供たちは１枚の「個人票」で「今後，どんな問題をできるようになりたいか」，「学習を見直すところはないか」といった振り返りができるようになりました！

目　次

Ⅰ　調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　結果の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅲ　児童生徒質問紙と学校質問紙の結果から　・・・・・　6

Ⅳ　結果の詳細について（授業改善のポイント）

1　小学校第5学年

・　国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

・　社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

・　算数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19

・　理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22

2　中学校国語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

3　中学校社会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31

4　中学校数学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37

5　中学校理科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43

6　中学校英語　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49

Ⅰ　調査の概要

1　趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識及び技能や思考力，判断力，表現力等に関する学力の状況を把握するとともに，児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また，各学校に全県的な傾向との比較・分析などを通じて，自校の課題を明確にさせ，問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに，児童生徒の学力向上を図る。

2　調査の対象学年，学級等

(1) 県内全ての公立小学校第5学年，中学校第1，2学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし，複式学級を有する学校においては，履修していない内容を調査から除外して実施する。なお，小・中学校における特別支援学級の児童生徒については，該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。

(2) 特別支援学校においては，該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校（小学部）	第5学年	470校	13,198人
中学校（中学部）	第1学年	206校	12,295人
	第2学年	209校	12,228人

※　本調査に関わる調査問題，報告書等において，義務教育学校の第7学年を中学校第1学年，義務教育学校の第8学年を中学校第2学年，義務教育学校の前期課程を小学校，後期課程を中学校と読み替えることとする。

※　調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

※　調査児童生徒数は1教科でも学力調査を実施した児童生徒の総数を示す。

3　調査の内容

(1) 学力調査

主として「知識・技能」に関する内容と，主として「思考・表現・表現」に関する内容で出題し，調査対象教科の学力の定着状況（当該学年の12月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校（小学部）】 第5学年　・・・　国語，社会，算数，理科

【中学校（中学部）】 第1，2学年　・・・　国語，社会，数学，理科，英語

(2) 学習状況調査（児童生徒質問紙）

質問紙により，調査対象者の学習に関する意識や学び方などの学習状況について調査する。

(3) 学校質問紙調査

学力向上の取組，校内研修の状況について調査する。

4　調査の実施時間

（1）学力調査

小学校（小学部）　45分（調査票の配布・説明等5分，調査時間40分）

中学校（中学部）　50分（調査票の配布・説明等5分，調査時間45分）

（2）学習状況調査（児童生徒質問紙）

小・中学校(小・中学部)　15分程度（調査票の配布・説明等5分程度，調査時間10分程度）

5　調査の実施日

（1）学力調査

令和5年1月17日（火）・　1月18日（水）

（2）学習状況調査（児童生徒質問紙）

令和4年11月21日（月）～12月16日（金）

6　調査の採点及び結果の集計・分析

（1）　各学校

自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い，集計結果をかごしま学力向上支援Webシステムに登録する。自校の調査結果については，保護者に対して説明責任を果たすとともに，集計表ファイルや，かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら，その後の指導方法等の改善に生かす。

（2）　各市町村教育委員会

自市町村の調査結果について，集計表ファイルや，かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら，自市町村の学力向上や指導法改善への取組に生かす。

（3）　県教育委員会

調査結果を集計・分析し，県全体の学力の定着状況や学習状況について公表するとともに，指導方法の工夫改善の参考となる資料等を作成し，各学校に配布することにより，各学校の学力向上への取組を支援する。

Ⅱ　結果の概要

1　実施の状況

【学力調査】
本調査の全体の通過率を7割に設定し，調査問題を作成。
【学習状況調査】
児童生徒の学習に関する意識や学び方などに関する調査(質問紙)
【学校質問紙調査】
学力向上の取組，校内研修の状況，家庭・地域との連携等に関する調査
【実施校数】
小学校460校，中学校196校，義務教育学校9校，特別支援学校6校，県立1校
計672校

2　学力調査の結果（確定）

平均通過率［%］

〔令和4年度〕　※ は，70%以上。 は，65%以上70%未満。

		国　語	社　会	算数・数学	理　科	英　語
小5	全　体	70.9	77.5	67.4	71.7	
中1	全　体	70.4	68.4	70.9	63.2	75.7
中2	全　体	71.0	55.2	72.5	62.5	67.8

（参考）

〔令和3年度〕

		国　語	社　会	算数・数学	理　科	英　語
小5	全　体	72.3	79.9	70.6	73.1	
中1	全　体	73.6	70.3	66.0	69.4	71.5
中2	全　体	77.3	66.8	70.2	68.6	60.4

〔令和2年度〕

		国　語	社　会	算数・数学	理　科	英　語
小5	全　体	75.1	75.5	69.4	74.9	
中1	全　体	78.7	64.4	74.8	70.3	68.0
中2	全　体	76.7	67.6	67.0	70.8	57.8

〔令和元年度〕

		国　語	社　会	算数・数学	理　科	英　語
小5	全　体	73.6	72.2	76.7	81.2	
中1	全　体	79.6	64.9	71.3	64.8	67.9
中2	全　体	74.5	61.2	60.7	58.0	61.0

3　分析・考察

⑴　全体平均通過率から

本調査は全体の通過率を7割に設定しており，全体の通過率が7割を越えた教科は，昨年度は14教科中9教科，本年度は14教科中8教科でした。1教科少ない結果となったことは，昨年度と対象となる児童生徒が異なることや，前述のとおり，本年度から調査問題の内容や出題数の見直しを行ったこと等から一義的な評価は難しいものの，昨年度と同程度の結果となったことは，学習指導要領が求める資質・能力を意識した授業改善等が行われつつあると捉えることもできます。

いずれにしても，各学校及び教員においては，目の前の児童生徒一人一人が，どの問題がなぜできなかったのか，また，どの部分でつまずいたのかをしっかりと把握し，どのような授業を行えばよかったのか，そして今後どのような授業を行うべきなのかを振り返ることが重要です。併せて，児童生徒一人一人に対しても，正解できなかった問題の分析等を自ら行わせ，なぜ正解できなかったのか，どうすれば正解できたのか，どのような学習をすればよかったのか，今後学ぶ際にはどのような点に気をつければよいのか等，自らの学びを自らで振り返らせることが重要です。

このことが，次ページ以降に記載する「学習者主体の学び」への第一歩であり，その土台である「学びに向かう力，人間性等」の重要な要素を占める「メタ認知」を育むことにもつながります。さらに言うと，これを行うことが，本調査の趣旨・目的であると言っても過言ではありません。必ず，こうした分析を，教員及び児童生徒自身が行い，次につなげるよう取組をお願いします。

⑵　各観点別の通過率から

次の表は，各教科，各学年において，主として「知識・技能」に関する内容と，主として「思考・判断・表現」に関する内容における平均通過率をまとめたものです。

これまでの鹿児島県の学力の現状として，主として「知識・技能」に関する内容と比べ，主として「思考・判断・表現」に関する内容における定着が十分でないことなど，学力がバランスよく身に付いていないといった課題が挙げられています（「令和4年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析」から）。今回の鹿児島学習定着度調査においても，主として「思考・判断・表現」に関する内容の通過率が5割台である教科・学年は14教科中6教科となっています。

こうした課題を解決していくためには，授業において，例えば，表・式・グラフ等の複数の資料から必要な情報を見いだし，自分の考えとしてまとめる活動や，互いの考えを伝え合う対話的活動を通して自分の考えを振り返り，評価・改善する活動を行っていくなど，各教科における見方・考え方を働かせながら問題を解決していく授業づくりが求められます。

詳細については授業改善案も含めて各教科の分析のページ（P13～）において述べてあり，2次元コードを読み取ることで動画も視聴できるため，それらの資料を参考にして，授業において学力の三要素をバランスよく育んでほしいと思います。

【小学校第5学年】

	国語	社会	算数	理科
知識・技能	76.1	82.4	74.5	72.4
自　校				
思考・判断・表現	65.1	67.7	55.6	70.7
自　校				

【中学校第1学年】

	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	77.5	70.6	80.5	68.2	74.9
自　校					
思考・判断・表現	64.4	64.1	54.3	55.0	76.8
自　校					

【中学校第2学年】

	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	63.7	55.3	80.3	67.9	73.7
自　校					
思考・判断・表現	75.9	54.2	61.0	52.3	58.4
自　校					

それぞれの観点において，県通過率と自校の結果とを比較してみましょう。